

JCHO うつのみや病院
第 8 回地域医療連絡協議会議事録

(日 時) 令和元年 8 月 1 日 (木) 16:00～
(場 所) JCHO うつのみや病院 2 階大会議室
(出席者) 20 名
(議 題) 病院の概況について
 前回報告事項の進捗状況について
 防災対策について
 その他

【概要】

(司会：栗原副施設長の進行)

1. 草野院長よりあいさつ

平成 26 年度から開催して今回で第 8 回となる。JCHO 法で地域住民、行政、医師会の方々から意見をいただくことが定められている。今回もご意見をいただき、今後の参考としたい。

2. 新委員紹介・あいさつ

(これ以降設置規定第 7 条により森澤委員長が議事進行)

3. 議題

●事務局甲斐：(別紙スライド資料により説明)

・別紙資料参照

○森澤委員長：駐車場の整備は 9 月から開始か

●事務局甲斐：診療に影響が出ないよう 9 月の連休に工事を考えている。今後、住民の皆様への説明、ご案内を予定している。

○森澤委員長：業者の選定は進んでいるのか

●事務局甲斐：実質的に決定している

○森澤委員長：設備についての進捗は

●事務局甲斐：老健の給水ポンプが一番老朽化が進んでいる。今年度中の改修完了を見込んでいる。空調については本部の設備担当職員が来て調査してもらったが、今すぐ使えなくなるというわけではない。昨年の空調の不調は落雷によるもので本体に影響はない。ただ老朽化は進んでいるため、来年度の予算で行う予定。

○森澤委員長：赤字について

○渡邊委員：内科が減少しているのか

- 草野院長：きちんとした分析ではないが、近隣に同じような病院があることや脳外科、神経内科で常勤の医師がいないため救急が受け入れできないことがあげられる。今後は徐々に医師が確保できると予想している。しかし、自治医科大学も様々な病院に医師を出すため、無理強いはいできない。
- 森澤委員長：自治医科大学も人の異動があり医師数も徐々に戻っているが、まだ間に合っていない。
- 渡邊委員：宇都宮では透析の施設が増加しており心配している
- 草野院長：このような状況は見込まれていたが、本部が今年の 2 月にやっと許可が下りた。現在当院では年間 25~30 人程度の新規患者があるため、損益分岐点の 60 人にはなるだろう。
- 森澤委員長：SPD を導入しているが、どのような変化があったか。
- 事務局甲斐：過剰な在庫を減らし、効率化は行われてきた。しかし価格交渉に関して 2 年目から効果が出るような契約内容になっており、実施に業者の社員が配給を行うなどの過剰なサービスが行われていた。この点を解消し、昨年度のような足かせになることはなくなった。
- 森澤委員長：地域医療支援加算にはいくつか条件があったと思うが
- 草野院長：条件はいくつかあるが当院では紹介率ではねられた。60%を目指す。
- 倉松委員：収入推移について、入院の収益は減少している。入院患者数は増えているが要因は何か。
- 草野院長：点数の高い外科の患者が少なかったことが要因と考えられる。自治医科大学からの外科医師が数年で変わってしまうことも関係しているが、自治の方針もある。ただ、新しい医師が来ることによるメリットもある。
- 森澤委員長：防災訓練について 8 月 7 日は院内訓練か
- 草野院長：県の担当職員が来て、立ち会う。
- 藤川副院長：災害拠点病院に対して最低 3 日分の水、トイレ等の備蓄が必要と国の方針があり準備を行った。訓練については過去 2 度トリアージ訓練等を行い、今回は通しで行うことにしている。
- 森澤委員長：紹介状を持って来ることは医療機関では常識であるが、患者としてはまだまだ浸透していない。逆紹介の流れが出来なければ
- 草野院長：逆紹介をしても患者が納得できないことがある。長期間うつのみや病院を利用していると愛着がでるが、大学病院等が全て良いとは限らないことをわかってもらい、「うつのみや病院を卒業した」という考え方を持ってもらうことが必要。
- 木平副院長：介護保険も厳しくなり、老健も在宅復帰率を求められている。家族のための老健、家族のための看取りと幅広く考えたい。
- 藤川副院長：回復期は 70%以上在宅復帰させられないといけませんが、当院は約 85%

になる。一般病棟も含め、基本は紹介してくれた先生へ帰すことにしている。1日で色々な科を回れることにメリットがある慢性病の患者もいるため、難しい面もある。

- 木平副院長：普段は地域の病院で診てもらい、CTなど高度な機械が必要な検査などで当院を利用してもらうなど、当院と他院とで「W 主治医」のような体制を作り、良い関係づくりをしていきたい。
- 渡邊委員：済生会は3ヶ月に一度診察をし、薬は一か月分しか出さない。その間はおかかりつけ医に見てもらうことにしており、お互いにメリットがある。
- 草野院長：大きい病院とおかかりつけ医の2人主治医体制というような形を。
- 潮田委員：紹介率、逆紹介率について、どのようなものかわかりにくい。そのような取り組みについて地域でも話題にできるようになれば。
- 森澤委員長：住民の皆様には知識を持って貰えれば、病院の経営が良くなり、その結果医療の質も上がる。
- 草野院長：複雑なシステムとなっていることが課題。名刺1枚では紹介したことにはならないため、患者も医師も手間がかかるが、病気を治そう、良くしようという気持ちは誰しも一緒。住民の皆様には説明する機会を設けていければと思う。

以上

令和元年8月総務企画課作成